

1. 調査報告概要表

作成日 平成 21年9月1日

【評価実施概要】

事業所番号	1090500016
法人名	三菱電機ライフサービス(株)群馬支店
事業所名	尾島ケアハートガーデン グループホーム さるびあⅡ
所在地	群馬県太田市尾島町270-1 (電話) 0276-52-5032

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町 1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成 21年 6月 29日

【情報提供票より】(21年4月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 5月 11日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤専任6兼務1人, 非常勤1人, 常勤換算 6.9人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り 1階建て
------	---------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	230 円	昼食	320 円
	夕食	530 円	おやつ	100 円

(4)利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	8名	男性	2名	女性	6名
要介護1		名	要介護2	3	名
要介護3	2	名	要介護4	2	名
要介護5	1	名	要支援2		名
年齢	平均 86.3 歳	最低	77 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	総合太田病院 堀江病院 横室医院 飯塚歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域との関係を大切にしながら施設長はじめ職員一同でサービスの向上と質の向上を目指している。広い敷地に2つの施設が隣接しており施設はオール電化となっている。施設長、事務長とも職員の離職を防ぐため働きやすい職場作りに重きを置いている。またサービスの質の確保は職員の研修にあるので法人研修、県が行う研修、グループホーム連絡協議会の研修などに積極的に参加している。利用者が役割を持ち生活する事が残存能力の維持に妻がると考え、台所は利用者にとって職員と共に作業しやすい設計となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	栄養摂取や水分確保の支援では評価の後すぐに検討され改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価の意義や目的は全員が理解しており、自己評価も全員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に開催されている。地域との関係を大切にしている施設の姿勢が地域から協力をしたいと言う発言に結びついている。施設は地域にも開放され、いきいきサロンとして利用されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱が設置されている。家族は施設に対して遠慮がある事を配慮し、施設長は面会に来た家族に「忌憚の無い意見を言ってください」と何でも話せるよう声を掛けている。運営推進会議にも家族が参加している。家族から敷地入り口にカーブミラーの設置希望が出されカーブミラーが設置された。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域のお祭りでは「グループホームさるびあ」のちょうちんを下げてもらったり、新年会、地域の行事などに積極的に参加している。地区のボランティアセンターとも連携をとり見学者などを受け入れている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は地域密着型サービスをふまえて作成しており、玄関、食堂などに掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は常日頃から理念を大切にされた職員教育を行い、振り返っている。月次会の時や申し送り時など理念を意識してもらうよう努めている。理念は職員に共有されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者は地域との係わり合いを大切にしていきたいと努めている。自治会に加入し、地域の祭りや新年会などに参加している。運営推進会議にも参加してもらい地域の施設として知ってもらう努力をしている。ボランティア・見学の受け入れなども行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価が職員のサービスの質を高めることにあることを理解している。職員も自己評価を理解している。今回は事業主と事務長がまとめ仕上げています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催されている。児童民生委員、介護相談員、市職員、利用者家族、利用者、管理者、事務長が参加している。施設より運営状況の説明を行っている。施設を応援していきたいという意見や施設に西陽があたるので、グリーンカーテンをしたいなど意見が出た。地域の人達との連携により利用者へのサービスの向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は利用者の更新申請など市役所に出向き、情報の交換をしている。また市の介護相談の講師などを事務長が頼まれたり市と連携をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	管理者は健康状態など状況の報告を電話で行っている。写真は希望した人には郵送している。個別の金銭報告は月に1度、出納帳をコピーして写真と一緒に郵送している。年6回「さるびあ通信」を発行していたが昨年夏より休止している。再発行を検討している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は家族の立場を理解しようと努力している。利用料を持参してくれる家族に対して気軽に意見を言ってもらえる雰囲気を作っている。家族の意見で入り口のところにカーブミラーが付いた。夏祭りも家族の希望で夕方から始めることになった。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は異動を少なく、働きやすい職場にしたいと思っている。新入職員は職員と2週間一緒について仕事を覚えてもらうこととしている。管理者・事務長は職員からの意見の吸い上げに努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員を積極的に研修に参加させている。県の研修、法人研修など多く参加している。認知症研修、基礎研修、AED講習、階層別研修、リーダー研修、スタッフ研修などに参加している。研修は月次回で報告される。職員は自分の参加したい研修を希望できる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に加入している。近隣のグループホームとも連絡・連携をとりお互いに訪問し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一人ひとりに合った入居の支援を工夫している。家族と共に慣れるまで利用できたり、食事代だけの3日間のお試し利用などができる。利用者には納得をしてもらい、家族にも理解してもらおう努力をしながら入所へと結び付けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を介護しながら教えられている。うどんのうち方、漬物の漬け方など生活の智恵を受け継いでいる。職員と利用者は毎日支えあいながら生活をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションがとれる人からは会話の中から意向を確認している。出来ない人には生活暦などから意向を察知している。また家族からも情報をもらいプランに反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を用いて利用者の意向の確認をしている。また家族より聞き取りなど行い計画を作成している。計画は職員会議にかけ共有されている。管理者は家族に報告し了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直しを行っている。また随時見直しがされている。毎月のモニタリングがされており、現状に即した計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人希望により美容院・買い物・受診・選挙の投票支援などが行われている。また施設は「太田市いきいきサロン」の会場として提供されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には利用者の今までのかかりつけ医となっている。協力病院への変更も希望で出来る。協力病院から月2回の往診がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に対しての指針があり、家族・職員に共有されている。医療連携体制をとっている。家族の希望に応えたいと努力している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への声の掛け方、言葉使いなど注意をしている。会議では、利用者の名前はイニシャルを用いている。書類は見えないところに保管している。職員とは入職時に誓約書を交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にした介護に努めている。朝起きられない人には時間をずらして提供している。1時間以上のずれの時には別食を提供している。お酒を夕食に嗜んでいる人もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は他グループホームの栄養士のものを参考にしているが利用者の希望があるときは変更している。外注食などもある。利用者は食材の下準備などを手伝い、うどん打ちも利用者が行っている。利用者と職員は一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合できめてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日や時間帯にこだわらない支援がされている。毎日入浴の出来る体制が整っている。原則1日おきの入浴だが、希望すればその時入浴が出来る。他にシャワー浴や足浴などの対応もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれに合った役割が支援されている。編み物、料理、洗濯干し、掃除、花壇の手入れなどがある。楽しみごとは歌や図書館、東照宮、ドライブなどが支援されている。誕生会、カラオケ、オカリナ慰問、手品、花見など気晴らしの支援もされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地が広く敷地内での散歩やお茶のみなどが出来るので日常的な外での支援がされている。近所への散歩などもされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は鍵を掛けることの弊害を理解している。鍵を掛けないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	平成20年6月より訓練が行われていない。	○	利用者の安全を確保するために日ごろから災害に対しての訓練をして、備える事が大切である。現在計画中だが、年に2回の訓練をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士により計算された献立を参考にしながら利用者の好みなどを取り入れ、バランスの取れた食事が提供されている。また利用者に水分が大切な事を職員は理解しており、水分摂取も目標が示されている。記録がされ利用者の脱水の発見に役立っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはテーブル、椅子、テレビなどが設置されている。また台所は利用者が調理に参加しやすい設計がされている。段差の無いたたみの部屋もあり、和やかな雰囲気がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	コタツ、机、椅子、鏡台、化粧品など、生活感のある居室になっている。また写真、作品、碁盤セットなどがあり個性ある個室となっている。		